

## 2024 年 3 月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

2023 年 11 月 13 日

株式会社アルプス物流

11 月 8 日(水)に決算説明会をオンライン形式にて実施いたしました。質問と当社説明は下記の通りです。

(電子部品物流の事業環境について)

Q: 自動車の EV 化による自動車産業の業界地図変化による当社影響は?

A: 中国の市場においては、急速に EV 化が進んでおり、外資系の合弁自動車メーカーのシェアが下がり、中国国内メーカーのシェアが上がっている。当社の荷主は外資系の部品メーカーが多く、外資系の合弁自動車メーカー向けのシェアが高いため当社においても影響を受ける部分となる。当社としては、中国マーケット用の製品・部品、いわゆる内貨の運送・保管にも注力しており物流キャパシティを高めている。また、この他にも構造変化は色々あり、中国内メーカーも含めた中国外への生産シフトなど、行動変容に対する対応を図っていく。

北米においては、当社の荷主は米メーカーが主のため、EV 化が進むことによる業界地図の変化はないと考えている。

Q: 荷動きの回復は来期以降になる見通しとのことだが、航空・海上ともに運賃の底割れしている状態に歯止めがかかる見通しをどう見ているか?

A: 種々要件により運賃動向は変化するため一概には申し上げられない。船便では全体の物量は増えていないようだが、一部レーンによっては増えている。今後の物量の変化が徐々に運賃に反映されるものと考えている。

Q: 電子部品物流のマーケットが回復して荷動きが増えてくると、昨年のように航空輸送需要の急速な拡大が発生し、来期以降に利益を大きく押し上げるようなシナリオはありえるのか?

A: 一昨年の後半～昨年の秋ごろまでは、サプライチェーンの乱れにより航空貨物の需要が大幅に増えた異常な時期だった。今後同様のことが起こらないとは申し上げづらいが、昨年までのような複数要因が重なったの異常事態が起こる可能性は低いと考える。景気の回復によって貨物量が増加すると想定している。

(電子部品物流の事業戦略について)

Q: 下期に注力するのは、海外のうちどの地域・拠点か?

A: 各国でロジスティクス事業の拡大、キャパシティの増強を進める。

Q: 近年、九州における半導体関連投資が活発だが、当社の取り組み・考え方を教えてほしい。

A: 当社はアルプスアルパインの子会社として事業開始し、2004 年に TDK 物流と合併を行った。どちらも拠点は東日本がメインの会社であり、東日本を中心に展開してきたことから西日本のネットワークはまだ十分ではなく力を入れている。九州については、昨今、熊本県のビジネスを増やしており、今後も注力していく。

Q：生産性の向上とは、具体的には何か？

A：保管事業、倉庫における生産性向上が大きなポイントと考えている。1つ目は自動化。2つ目は現場での改善活動。当社では、年間1万3千件ほどの改善が生まれている。小さな改善の積み重ねに加えて、外部の知識を導入し、改善・効率化の質の向上と幅を広げる取り組みも実施している。そのひとつに、TIE※の手法を用いた改善活動を実施しており、この5年ほどで効果が出ている。これらの改善活動を国内のみならずグローバルに実施しており、生産性の向上につなげている。

※TIE:トータル IE (インダストリアル・エンジニアリング)の略で、各工程だけでなく、複数の工程間のつながりを意識して全体最適をめざす手法

(消費物流の事業戦略について)

Q：生協個配は安定した採算だが、拡大している化粧品や冷凍食品の採算性は問題ないか？

A：この1～2年で個人向け冷凍品の宅配のニーズが高まっている。当社は、特定顧客のしっかりとした物量が確保できており、採算も問題ない。

(連結業績の見通しについて)

Q：2023 年3月期の営業利益80億円は、今後数年の目標値としてはかなりハードルが高いように思うがどのように考えているか？

A：2023 年3月期は一時的なプラス要因もあり、中計最終年度の目標値を超えた。そのため、まずは第5次中計の2025年3月期の目標値に向かって着実に取り組みを進め、その先はそれを超えていく計画を打ち出すことを考えている。

以上